



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三五五号〕

しゅうぶん
秋分

九月二十三日

神宮橋

伊勢神宮内宮に架かる橋は、宇治橋。時おり、神宮橋ではないのですね、といわれることがあります。伊勢市の宇治地区に架かる橋のため、宇治橋の名がありますが、神宮橋という橋も実在します。

神宮橋は、伊勢市の隣、明和町竹川地区を流れる被川に架かります。斎宮歴史博物館から、こんもりとした森を抜けると散策道が整備されています。畦には彼岸花が咲く田んぼが広がる中を進むと、被戸広場はらんどが設けられ、神宮橋があります。地元では「じぐ」橋と呼ばれています。

この神宮橋は、台風で流される昭和五十三年頃までは、対岸の松阪市稲木町と斎宮を往来する生活道や農作業に使われていました。古い写真を見ると、欄干もない小さな木橋だったようです。この橋が「明和町歴史的風致維持向上計画」により、木橋をイメージした神宮橋として整備されることになり、史跡内の散策道事業で新しく架けられたのです。私は十数年前、斎宮西の地域整備活用委員会の委員をしていた際に、この神宮橋構想について賛成していたため、ようやくと架けられたのかと感慨深いものがありました。

なぜここに神宮と付く橋があるのでしょうか。被川は今では櫛田川の支流の一つですが、かつてはもっと大きな流れで、櫛田川の本流であったとされます。古代は、飯野郡（現在の松阪市）と多気郡を隔てる川であったため、伊勢神宮の神領地へ入る橋ということで、この名が付いたと考えられます。被川は、平安時代にはいくども洪水を出す暴れ川で、川筋を変えていきます。

護岸工事をしていない被川は河畔林がしげり、趣があります。斎王も襖ぎをした、聖なる川は今もその流れは止まることはありません。文。

千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『日本橋に「おかげ横丁」がやってくる』

三重テラスにて、「第27回来る福招き猫まつり」のプレイベントを行います。
招き猫現代作家展やおかげ横丁とオンライン中継する特別対談、招き猫まつり限定商品の特別販売など、伊勢の魅力をたっぷりお届けします。

と き／10月2日(土)～10月6日(水) 10:00～17:00 ※3日(日)は14:45～

ところ／三重テラス2階イベントホール(東京都中央区日本橋室町2丁目4-1)

入場料／無料(横丁ほうじ茶ペットボトル付き)

○『第27回来る福招き猫まつり』

今回のテーマは、「幸せの黄色い招き猫」。

黄色の招き猫は、人と人を結ぶ、良縁を招くといわれています。

皆様にとって、黄色はどんな色ですか？

光り輝く太陽の色、それに向かって力強く咲くひまわりの色、心が弾み、楽しい気持ちにさせてくれる色・・・

私たちは、今年の招き猫の黄色に、そんな意味を重ねました。

皆様が、大切な人とのつながりを改めて強く感じながら、光り輝く未来に向かって力強く進んでいきますように。

招き猫たちが招く「黄色い福」で、おかげ横丁をいっぱいにして、お待ちしております。

と き／10月16日(土)～10月24日(日) 9:30～17:00 (催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

※主催者側の判断により、一部内容に変更が生じる場合がございます。

● 招き猫現代作家展

招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ、個性あふれる作品として表現されるようになりました。そんな中から「吉兆招福亭」が選抜した招き猫作家9名が揃います。

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

出展予定作家／天野千恵美、有田ひろみ・ちゃぼ、小澤康磨、櫻井魔己子、佐山泰弘、細山田匡宏、ホソカワマサヒコ、水谷満、もりわじん

● 郷土玩具招き猫、来る福展覧、招き猫絵付け教室など

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『神前神社の歴史について』

あるとき一人の神職から質問を受けました。

二見方面の撰社・末社で、堅田神社や江神社の祝詞は「度会の二見に坐す」とある。

しかし神前神社の祝詞は「度会の宇治に坐す」とあるのはどうしてかと。

今日では二見町松下に所在する神前神社ですが、古く松下村は度会郡宇治郷に組み込まれていたのです。意外に知られていないことですが、松下村が二見地区に転入されたのは、『二見町史』によると明治4年(1871)に至ってです。つまり現在の五十鈴川派川の左岸は古くから二見郷であり、右岸にあたる松下村はかつて宇治郷に属していたのです。それは何故でしょうか。

神宮の巡回祭典で参向する権禰宜・宮掌・出仕の三人が山登りとして歩を進める難所とされているのが鴨神社と神前神社の二所であり、後者の神前神社は長い急な石段を何段も登りきらないといけません。しかし現在地に移転遷座されたのは明治40年のことで、その前は海岸崖頭に鎮座していたとされます。

元の旧地はどこなのか。今回はこれらの謎について迫ります。

と き／10月5日(火) 13:30～15:00

講師／音羽 悟(神宮司庁広報室広報課課長)

参加費／一般 1,350円 会員 850円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

つきよ
月夜

毎夜少しずつ姿を変える月には、様々な呼び名があります。

満月の前夜に上る小望月から、十六夜の月などです。

こし銘の蒸し羊羹に栗を仕込み、美しい秋の夜空を表しました。

はつもみじ
初紅葉

伊勢の野山も秋の装いになり、木々の葉が美しく彩り始めました。

川面の様子を寒天で表し、伊勢からの秋便りを届けます。

はつかり
初雁

「初雁」とは、その年の秋、初めて姿を見せた渡り雁のことです。

山芋を使った薯蕷生地で白銘を包み、雁の飛ぶ姿を表しました。